

『小学校件名標目表：第2版』の維持管理に関する予備的研究

瀬田祐輔

学校教育講座

A Preliminary Study on Maintenance of Elementary School Subject Headings (2nd ed.)

Yusuke SETA

Department of School Education, Aichi University of Education, Kariya 448-8542, Japan

1 背景と目的

2004年11月、『小学校件名標目表：第2版』¹⁾ (以下「ESSH2」という) が刊行された。その後5年が経とうとしているが、学校図書館界においては、その意義あるいは問題点については、ほとんど議論に上っていない。しかしながら、界に影響力をもつ全国学校図書館協議会の著作物であるがゆえに、学校図書館における標準件名標目表としての適否についての検証、すなわち評価が然るべく求められているといえよう。

筆者はかつて、ESSH2の旧版『小学校件名標目表』²⁾ (以下「ESSH」という) が、維持機能が不十分であることを指摘した³⁾。改訂されたESSH2を包括的に評価するにあたり、維持機能の不備が改善されたか否かを確かめておくことに一義はあるといえる。

維持機能の改善状況を確認する客観的な指標の一つとして、付与実績にみる、新設件名(本表中に存在しない件名)の付与件名全体における占有率(割合)に注目したい。それは、件名作業を進めていけば必然的に生じる事態である件名の新設が、どの位の割合で生じるかを把握することで、維持管理の難易の一面をみることができると考えられるためである。

先行研究について、ESSH2の維持管理を主題とした研究は、少なくとも2009年8月までには発表されていない。ESSH2をとり上げた研究としては、北克一と米谷優子によるESSH2のBSH4への変換・包摂可能性を検討した論文⁴⁾があるが、直接的な主題ではなく、先行研究とはいえない。また、ESSH刊行時にみられたような、編者である全国学校図書館協議会の件名標目表委員会関係者による解説論文⁵⁾も、ESSH2については発表されていない。そのため、維持管理については、ESSH2本体にみられる解説⁶⁾が最も詳細な文献である。

そこで本稿では、編者である全国学校図書館協議会自身が件名を付与した全国学校図書館協議会選定図書のリストを用いて、件名の付与状況を把握した上で、新設件名の分析を行い、維持管理の難易について判定することとする。

なお、本稿においては、ESSH2本表中に存在する件名を「既存件名」、存在しない件名を「新設件名」と呼ぶこととする。

2 方法

維持管理の難易について判定するために、全国学校図書館協議会選定図書のリストを用いて、記録資料分析を行った。その方法の概要は、以下のとおりである。

・対象：

全国学校図書館協議会選定図書のうち、2004年度選定分に相当する、第1269回(2004年4月5日)から第1288回(2005年3月14日)の合格図書4,625点⁷⁾

・手続き：

- ①『学校図書館：速報版』No.1674からNo.1698に発表された全国学校図書館協議会選定図書のリストより、ESSH2により件名を付与された図書⁸⁾を抽出し、当該件名を集計・整理
- ②整理した件名群とESSH2との照合を行い、既存件名、及び、新設件名に類別
- ③新設件名をさらに類別・集計の上、それぞれを分析

3 結果

3.1 件名の付与状況

選定図書全体におけるESSH2件名の付与状況を表1に示す。

2004年度（選定回数20回）に選定された合格点数は4,625、そのうち、件名が付与された図書の点数は792であり、付与率は17.1（平均値）であった。これらの図書に付与された件名の総数は1,801であり、図書1点あたりの付与件名数は2.3（平均値）であった。

3.2 付与件名の類別

付与件名の総数1,801の重複を整理したところ、付与件名の種類は909であった。さらに、909種類の件名をESSH 2本表中の件名と照合した結果、既存件名が約74%（673種類、表記のゆれが明らか⁹⁾な10種類を含む）であったのに対して、新設件名は約26%（236種類）であった（表2参照）。また、新設件名はいくつかに類別できることが見出された。以下では、新設件名に関する結果を記すこととする。

(1) 省略件名

ESSH2は、同類の件名が多数ある33の分野については、いくつかの件名を本表中に例示の上、他は省略する形を採用している¹⁰⁾（表3参照）。ここでは、この類の件名を「省略件名」と呼ぶこととする。「省略件名」が占める割合は、付与件名全種類の約9%、新設件名の約36%（85種類）であった。

「省略件名」の分野別の内訳を表4に示す。

人名が占める割合が約38%と最も高く、動物名が約22%とそれに次いでいた。

(2) 細目付件名

ESSH2は、形式細目（辞典・図鑑・伝記・歴史のみ¹¹⁾）、地理細目、及び、地名もとの主題細目（産業・風俗習慣のみ）の3種類の細目を採用している¹²⁾。ここでは、細目を伴った件名を「細目付件名」と呼ぶこととする。「細目付件名」が占める割合は、付与件名全種類の約6%、新設件名の約22%（51種類）であった。

「細目付件名」の類別の内訳を表5に示す。

3種類の細目の中では、形式細目が占める割合が約65%と最も高く、地理細目が約33%とそれに次いでいた。形式細目中でも最も多く用いられた細目は図鑑で、これが占める割合は、細目付件名全体の約51%、形式細目の約79%（26種類）であった。

(3) 使用方法等が異なる件名

既存件名（または同一概念の件名）に非常に近い表記や形式をとりながら、ESSH2が示す使用方法等とは異なる使用等がされている件名（ここでは「使用方法等が異なる件名」と呼ぶ）が占める割合は、付与件名全種類の約6%、新設件名の約24%（56種類）であった。

ESSH2とは「使用方法等が異なる件名」の類別の内訳を表6に示す。

使用方法が異なるもの（件名）が占める割合が約54%と最も高かった他、使用方法が異なるもの（細目）が約13%、表記方法が異なるものが約7%であった。

また、件名として付与されているが、ESSH2本表中においては、他の件名の参照語となっているものが約20%の割合でみられた。

〔事例〕

- ・使用方法が異なるもの（件名）
民話集 … 本表中では「民話」に包含
- ・使用方法が異なるもの（細目）
産業—沖縄県 … 解説では「産業」は“地名もとの主題細目”
- ・表記方法が異なるもの
絵のかきかた … 本表中では「絵のかき方」
- ・本表中では参照語であるもの
飛行機 … 本表中では「航空機」の参照語

(4) その他の新設件名

「省略件名」、「細目付件名」、あるいは、「使用方法等が異なる件名」のいずれでもない件名（ここでは「その他の新設件名」と呼ぶ）が占める割合は、付与件名全種類の約5%、新設件名の約19%（44種類）であった。

「その他の新設件名」を、全て列挙して表7に示す。参考までに、当該件名が付与された図書の書誌データに付与されている分類記号を併記してある（当該件名自体の分類記号が不明な場合が多いため）。

様々な分野にわたることが分かる他、一部で、「省略件名」に準じるとみられる件名（ESSH2の示す33以外の分野）を見出すことができた¹³⁾。

〔事例〕

- ・コソボ、デンマーク → 国名
- ・韓国語の本、ロシア語の本
→ 外国語の本の種類
- ・お好み焼き、カレー、洋菓子
→ 料理の種類・名称
- ・とうふ、もち → 食品名
*右辺は想定される分野名

4 考 察

本章では、前章の結果を基に、ESSH2の件名新設作業の難易を検討することを通して、維持管理の難易についての判定を試みる。

はじめに、新たな主題を表現する件名の新設プロセスについて示しておく。件名新設は、一般的には、次のような検討手順をふむと考えられる¹⁴⁾。

〔新設の要否の判断〕

- ①既存件名による新主題のカバーの能否（複数件名の併用も含む）の検討
- ②新主題に関する図書の今後の刊行動向の予測

③新主題を表現する言葉の定着性（安定性）の考慮

④①～③を判断材料に要否を決定

〔標目形式の採択〕

⑤新主題を表現する言葉＝標目の形式の検討

⑥採用されなかった候補標目の参照語としての採否の検討

ここで、新設件名のうちの「使用方法等が異なる件名」について、補足説明をしておく。注7に示したとおり、ESSH2の刊行は2004年11月であるが、2004年度選定分（2004年4月5日）より、当該版での件名付与がなされている。本稿で扱った記録資料の範囲は、ESSH2刊行の前後である。その結果、「使用方法等が異なる件名」が、付与件名全種類の約6%、新設件名の約24%（56種類）という相当の割合で存在していることは、件名付与開始期、かつ、刊行前の暫定的方法による付与に伴う混乱のためである、と考えることができる。ESSH2に則っていないことは問題であるが、「使用方法等が異なる件名」の出現は一過性のものである可能性が高いとみなし、本稿においては評価を保留することとする。従って、以下では、「使用方法等が異なる件名」を除いた形で論を進める。

4.1 件名新設作業の難易

(1) 省略件名

「省略件名」の新設に関して、ESSH2本体にみられる解説において、同類の件名が多数ある主な分野を33にわたり列挙・記述した箇所があり、さらに、分野がこれ以外にも存在する旨を暗示した記述もみられる¹⁵⁾。また、本表中には、33分野に属する上位件名に注記（記号○）があり、直接下位に同類の件名が多数あることから、表にはそれらを例示するにとどめた旨が記されている¹⁶⁾。なお、数は限られているが、本表中には、それらの件名が例示されている（但し、例示件名ではないものとの区別はつかない）。

従って、「省略件名」が33分野に該当する場合は、省略されている件名を復元することに他ならないため、当然新設が可能であるという前提の下で、①～④の新設の要否の判断を行い、標目形式の採択を行う。他方、33以外の分野の場合は、分野がこれ以外にも存在する旨の暗示はみられるが、範囲の明示がないために上述のような前提を得ることができず、通常の新設の要否の判断・標目形式の採択プロセス（以下「通常の新設の判断・採択プロセス」という）を行う他ない。

ところで、33以外の分野を33分野に追加して運用することの能否や、追加の手順等の手立てについては、ESSH2においては全くふれられていない。新設の要否の判断が容易である分野を拡大していくことの見込みはあまりないとみられる。

(2) 細目付件名

「細目付件名」の新設に関して、ESSH2本体にみられる解説において、細目の種類や適用方法の説明を記述した箇所がある¹⁷⁾。基本的な適用方法、件名の例の他、主標目と細目を統合して一語にした件名の大部分が示されている（日本を冠したものについては全てではない）。なお、数は限られているが、本表中には、「細目付件名」が例示されている（表現形式としてダッシュを使用していることから、例示件名ではないものとの区別はつきやすい）。

従って、「細目付件名」は、通常の新設プロセスは行いが、特に⑤について、細目の適用方法に留意しつつ検討を行わなければならない。但し、主標目が既存件名の場合は、当該既存件名に準じ従うことになるため、②や③についての判断は、通常の新設プロセスを経る件名の場合に比べて容易であり、⑤の検討も、細目の適用方法を理解していれば、ただそれに則るのみでよいということになる。

(3) その他の新設件名

「その他の新設件名」の新設に関しては、ESSH2本体にみられる解説における記述が、当然ながらみられない。そこで、先に得られた事例を基に分析する。

「その他の新設件名」には、33分野には含まれていないものの、「省略件名」に準じるとみられる件名を一部で見出すことができる。しかし、(1)でみたように、分野を追加して運用するための手立てが示されていないことから、分野の拡大がかなえられない。そのため、「その他の新設件名」のうち、「省略件名」に準じるとみられる件名であっても、当然新設が可能であるという前提を得ることはできず、通常の新設プロセスにより新設する場合と難易は何ら違いがないということになる。

他方で、「省略件名」に準じるとみられる件名以外のものが大きな部分を占めている。そこには、物理的な対象概念のみではなく観念的な実体概念、すなわち行為（自己表現、児童福祉）、性質（酸性、アルカリ性）、関係（親子）などといった抽象的な概念を表す件名が少なくなく含まれていることが分かる。抽象的な概念は、類似概念や隣接概念との関係（重複や差異など）が複雑であることが多いため、通常の新設プロセスに加え、①において、新設すべきであるか否かの判断に特に留意して作業を進めなければならないものであるといえる。

以上のように、「省略件名」、及び、「細目付件名」については、通常の新設プロセスに比べて、新設作業が易しい場合も想定されるが、「その他の新設件名」については、前提や準じ従うもののような拠り所をもたない中で、抽象的な概念の場合にみられるように、新設すべきか否かの判断が厳密に求められるという、通常の新設プロセス以上に新設作業が難し

いものであることが分かる。

4.2 維持管理の難易

新設件名の全体での位置づけをみると、全付与件名853種類のうちの約21%、すなわち180種類が新設件名であり、この割合がいわば占有率である（「使用方法等が異なる件名」を除いた値、表8参照）。これを単純にとらえれば、5種類の件名を付与する間に、そのうちの1種類は新設して付与しなければならないということになる。件名標目表の維持管理を考える際、この占有率をどのように解すべきであろうか。

4.1節において得られた件名新設作業の難易に従えば、新設作業が難しいとみられる、「その他の新設件名」が占める割合は約24%にとどまり、何かしら抛り所があり新設作業が比較的容易であるとみられる、「省略件名」（約47%）、及び、「細目付件名」（約28%）を合わせた割合は約76%に上る。このことから、一見、件名新設作業は全体として難しいものではないという印象を受ける。しかしこれは、新設件名に占める割合（内訳）をみているに過ぎない。

付与件名全体をみれば、新設件名の占有率が約21%であるとはいえ、1年度に180種類の件名を件名標目表に追加していく作業量は大変大きなものである。新設の機会、新設件名の絶対数が多いほど、件名標目表の維持管理を煩雑にしてしまうことは否めない。

しかも、件名新設作業が通常より難しいとみられる「その他の新設件名」は、付与件名全種類の約5%という一定の割合を占めており、その実数として1年度に44種類を認めた。必要と判断されて新設された件名の数が相当に多いことからして、たとえ5%程度であっても、極めて稀なものである、と看過することができないと考えられる。

従って、ESSH2の維持管理は、容易なものであるということとはできない。

5 むすびにかえて

本稿においては、件名新設作業の難易の検討を通して、ESSH2の維持管理の難易についてみてきた。ESSHの付与実績との直接比較を行ったわけではないので、旧版と比べて、維持機能の不十分な点が改善されたか否かの客観的なデータによる判定まではできない。しかし、付与実績に照らして、新設作業が通常より難しいとみられる類別が一定の割合で存在すること、そして新設件名が相当数あることから、ESSH2は維持管理が容易ではないことが見出された。

本稿で扱った付与実績は、付与開始から1年度分という限定されたものであった。翌年度分以降の付与実

績を加え、経年変化をみることに及び、ESSHの付与実績との比較を行うことにより、維持管理の難易についての正確な判定を行うことができると考えられる。これを今後の課題としたい。

注・参考文献

- 1) 全国学校図書館協議会件名標目表委員会編。小学校件名標目表。第2版。東京、全国学校図書館協議会、2004、303p.
- 2) 全国学校図書館協議会件名標目表委員会編。小学校件名標目表。東京、全国学校図書館協議会、1985、159p.
- 3) 瀬田祐輔。『小学校件名標目表』（全国学校図書館協議会、1985）の一考察。資料組織化研究。No.43、p.1-14（2000）
- 4) 北克一、米谷優子。『小学校件名標目表第2版』と『基本件名標目表第4版』の比較考察と変換・包摂の研究。資料組織化研究。No.52、p.47-61（2006）
- 5) 全国学校図書館協議会の機関誌『学校図書館』No.416において、件名標目表または件名目録に関わる特集が組まれている。特に小学校向けのものとして次の文献がある。
・谷口豊。『小学校件名標目表』：作成の経過と特徴。学校図書館。No.416、p.14-18（1985）
・村井希典子。件名目録作成の実際：その手順。学校図書館。No.416、p.31-35（1985）
- 6) 全国学校図書館協議会件名標目表委員会。『小学校件名標目表 第2版』の構成と活用。小学校件名標目表。全国学校図書館協議会件名標目表委員会編。第2版。東京、全国学校図書館協議会、2004、p.7-22.
- 7) 次の文献にあるように、ESSH2の刊行は2004年11月であるが、2004年度選定分（2004年4月5日）より、当該版での件名付与がなされている。
・全国学校図書館協議会。選定図書リストへの件名付与と目録形式の変更について。学校図書館速報版。No.1674、p.13（2004）
- 8) 但し、小説・物語には原則として付与されないことになっている（注7の文献）。
- 9) たとえば、イヌ（ESSH2本表に存在する）、及び、犬（存在しない）の両方が、それぞれ件名として付与されているようなことを指す。
- 10) 注6の文献、参照はp.8-10.
- 11) 形式細目の辞典または歴史と統合して一語とした件名は、英英辞典、英和辞典、漢字辞典、国語辞典、古語辞典、人名辞典、和英辞典、世界史、日本史のみである（注6の文献）。
- 12) 注6の文献、参照はp.11-13.
- 13) このうち、国名、及び、外国語の本の種類、加えて地名に関しては、省略の根拠をESSH2本体にみられる解説に見出すことができる（注6の文献）。
- 14) 次の文献中の例を参考に、一般的に記述した。
・千賀正之。“第21講 件名作業をまなぶ”。図書分類の実務とその基礎：データ作成と主題検索へのアプローチ：NDC新訂9版対応。千賀正之。改訂版。東京、日本図書館協会、1997、p.237-247。参照はp.244-246.
- 15) 注6の文献、参照はp.8-10.
- 16) 注6の文献、参照はp.15.
- 17) 注6の文献、参照はp.11-13.

（2009年9月17日受理）

表1 全国学校図書館協議会選定図書（2004年度）における ESSH2件名の付与状況

	合格点数	件名付与点数 (件名付与率)	付与件名数	付与件名の種類数
2004年度 (20回)	4625 点	792 点 (17.1 %)	1801 項目 (2.3 項目/点)	909 種類

表2 付与件名の類別 (N=909)

種類	割合	種類	割合
既存件名	74.0 %		74.0 %
新設件名	26.0	省略件名	9.4 (36.0)
		細目付件名	5.6 (21.6)
		使用方法等が異なる件名	6.2 (23.7)
		その他の新設件名	4.8 (18.6)
	100.0		100.0

注： () 内は新設件名を100とした割合，単位は%

表3 省略件名の主な分野

1 博物館・美術館の種類・名称	21 建築物の種類・名称
2 歴史上の事件名	22 道路・橋などの種類・名称
3 遺跡・遺物名	23 農産・畜産・水産物の種類・名称
4 都市名	24 各種機器の種類・名称
5 国立公園・国定公園	25 伝統工芸の種類・名称
6 公共施設の種類・名称	26 郷土芸能の種類
7 職業名	27 おもちゃの種類
8 法律名	28 楽器の種類・名称
9 条約名	29 スポーツ・競技名
10 年中行事・祭りの名称	30 遊びの種類・名称
11 災害の種類・名称	31 言語名
12 元素・化合物名	32 人名
13 金属・合金名	33 書名・作品名
14 星・星座名	
15 山・川・平野・海などの名称	
16 化石・古生物名	
17 岩石・鉱物名	
18 植物名	
19 動物名	
20 病名	

(ESSH2本体にみられる解説を基に筆者作成)

表4 省略件名の内訳 (N=85)

分野	割合
人名	37.6 %
動物名	22.4
植物名 ∧ 農産・畜産・水産物の種類・名称	7.1
職業名	7.1
病名	5.9
その他	20.0
計	100.0

表5 細目付件名の内訳 (N=51)

細目の種類	割合	細目	割合
形式細目	64.7 %	図鑑	51.0 (78.8) %
		辞典	7.8 (12.1)
		歴史	5.9 (9.1)
		伝記	0.0 (0.0)
地理細目	33.3		33.3
地名のもとの主題細目	2.0	風俗習慣	2.0 (100.0)
		産業	0.0 (0.0)
計	100.0		100.0

注： () 内は形式細目, または, 地名のもとの主題細目を100とした割合, 単位は%

表6 ESSH2とは使用方法等が異なる件名の内訳 (N=56)

種類	割合
使用方法が異なるもの (件名)	53.6 %
本表中では参照語であるもの	19.6
使用方法が異なるもの (細目)	12.5
表記方法が異なるもの	7.1
その他	7.1
計	100.0

表7 その他の新設件名 (N=44)

件名	分類記号 (NDC) *			件名	分類記号 (NDC) *
メディア活用能力の育成	017.08			しもばしら	451.63
読書教育	019.2	379.9	480.76	商標	507.2 727
読み聞かせ	019.2	379.9		知的財産権	507.2
魔法使い	147.1			特許権	507.2
自己表現	159.5	316.1	781.9	治水	517
児童福祉	293.893			リサイクルセンター	518.52
保育	293.893			燃料電池	519
EU	319			ビーズ	594
親子	320			とうふ	619.6
盲学校	370.35			デンマーク	726.6
ろう学校	370.35			コソボ	748
各種学校	370.35			音楽教育	760.7
精神障害者	371.43			ミスター・インクレディブル	778.77
精神医学	371.43			身体障害者	780
国際交流	375			朝鮮	801.1
カレー	383.8	596		王	908.3
洋菓子	383.8			王子	908.3
もち	383.81			王女	908.3
お好み焼き	383.8176			女王	908.3
静電気	428.9			竜	908.3
アルカリ性	431.3			韓国語の本	929.13
酸性	431.3			ロシア語の本	983

注： *は当該件名が付与された図書の書誌データに付与されている分類記号 (当該件名自体の分類記号ではない)

表8 付与件名の類別（除「使用方法等異なる件名」）（N=853）

種類	割合	種類	割合
既存件名	78.9 %		78.9 %
新設件名	21.1	省略件名	10.0 (47.2)
		細目付件名	6.0 (28.3)
		その他の新設件名	5.2 (24.4)
	100.0		100.0

注：（）内は新設件名を100とした割合，単位は%